

サポ通

さばえNPOサポート通信

■ Vol.26 発行日 ■ 2015年11月10日
発行 ■ (特活)さばえNPOサポート
編集 ■ 広報委員会

サポ通は、(特活)さばえNPOサポートが自主発行している機関紙です

NPOと ガバナンス



■『ガバメント』と『ガバナンス』

最近、マスコミでも耳にする『ガバナンス』という言葉。
直訳すると“統治”といった意味ですが、よく似た形で使われる『ガバメント』とは対照的なイメージだとか。

◎ガバメント…法的な拘束力を持つ、行政的な統治

◎ガバナンス…多様な関係者が主体的に関わる、
意志決定・合意形成のシステム

…本来は、こんなニュアンスだそうです。

大小の違いはあっても、NPOや市民活動団体も組織なので、運営や合意形成のありかたは大切です。

今回は、その『ガバナンス』について考えてみましょう。

■団体ごとの“傾向”

代表、理事長、理事、委員長、正会員、賛助会員、事務局員、ボランティア、サポーターなどなど…団体に関わっている人たちは多種多様です。

立場によって、責任や決定権もマチマチですし、個性も様々。そんな団体全体の方向性をまとめる『ガバナンス』は、一見、大変に思えます。

でも、たいていの場合、“団体としての決定”は、それなりにできていることが多いでしょう。(そうでなければ、団体の活動が止まってしまいますから…)

◎代表や理事の牽引力が高く、他の関係者は、
その決定についていく場合。(トップダウン)

◎現場や会員からの意見が集まり、それを代表や
理事会が“団体の決定”とする場合。(ボトムアップ)

この2つは両極端の方法論で、それぞれに長所・短所があります。もちろん、その他の“道”もあるでしょうし、現実には、ふたつを併用していることも多いでしょう。

また、もしかすると、団体ごとに、どちらの傾向が強いかわからないかもしれませんね。

■『決定権』と『責任』

“トップダウン”には独裁的になる危険、“ボトムアップ”には衆愚政治的になる(視野や価値観の偏った意見が蔓延する)危険が、よく指摘されます。

どちらの場合も“決定する力”を持つ立場の人(たち)には、それに見合う『責任』が伴います。

多くの団体が、会員による「総会」を、最高の意志決定の場としているのは、民主主義的な『ガバナンス』を取り入れているからでしょう。

事業、人事、予算など、ここで『決定権』を握るのは、ひとりひとりの会員であり、その結果生まれる“成果”が良くても悪くても、その『責任』を負うのは会員自身でもあります。

もちろん、それは理事会や委員会といった団体内の組織でも同じで、団体に関わる人間は、大なり小なり、何らかの『責任』を負っているわけです。

あたりまえのことですが、逆に『責任』を負わない者(あるいは、負うつもりのない者や直接の関係者以外)が強い『決定権』を持つことは、かなり問題だということでもあります。

…ただ、実はNPOや市民活動団体の『ガバナンス』においては、もうひとつ大切な“関係者”の視点が不可欠かもしれません。

■社会に関わる活動

NPOや市民活動団体は、それぞれの“目的”のために活動しています。

そして、その“目的”は、直接の“関係者”でない『市民』『地域』(場合によっては、『自然』や『文化』など)を対象としていることも少なくありません。

ならば、団体の方向性やアクションを決定する『ガバナンス』において忘れてはいけないのは、“団体の外側にいる『市民』や『社会』(&『自然』や『世界』)の視点”ではないでしょうか?

そして、ここで最も重要なのは、その『市民』や『社会』には、「自分たちの団体や関係者の価値観とは“違う価値観の人々”や、“無関心な人々”も含まれる」という点です。

裏面につづく→

■多様性の大切さ

この「違う価値観を持つ相手を認め、共存する」という考え方は、民主主義の基本でもあります。

『多数決』は、民主主義における大切な意志決定ルールです。一方で『少数意見の尊重』『そこに至る討論のプロセス』なども重要視されるのは、多様な価値観を失った民主主義が、“権威主義”や“独裁体制に”変わってしまう危険をはらんでいるからだとも言えるでしょう。

■決定力vs多様性

少々話が大きくなりすぎましたが、実は、NPOや市民活動団体の『ガバナンス』においても、様々な意見を認め合うことは極めて大切です。

もちろんそれは、社会全体に関わる『目的』を掲げて活動しているからに他なりません。

だとすれば、よりよい『ガバナンス』のために一番してはイケナイこと…

それは、他の意見を「無視する」「おとしめる」「発表させない」といった、“多様な意見に触れる機会を奪うこと”だとも言えるかも知れません。

ただし、ここにひとつ問題があります。

色々な意見をテーブルにのせて議論することは大切なのですが、必要以上にやり過ぎると、決定までに膨大な時間がかかったり、意見が分散して決定できない…といったことになりかねません。

この“多様性と決定力のバランス”こそが、『ガバナンス』のキモとも言えるのではないのでしょうか。

■“謙虚”と“信頼”による『ガバナンス』を目指して

とはいえ、実際には、団体ごとにも案件ごとにも、その“バランス”のポイントは違います。状況によっては、“生煮え”のまま結論を出さなくてはならない場合もあるでしょう。

それでも、組織の活力をキープするためには、関係者たちの『やる気』(モチベーション)に気を配ることが大切になります。

組織、地域、家庭、そのどこにあって、人は、その場所で「自分が必要とされていること」、その場所に「希望を持てること」で、自分の力を傾けようと思うものです。特にボランティアに関わる団体では、この視点は重要です。

言い換えれば、メンバーそれぞれが“自分の居場所”だと思える組織かどうか、団体の『ガバナンス』の成功・失敗に直結しているとも言えるでしょう。

組織の話を、カンタンに個々の人間関係に落とし込むことは慎重にすべきですが、個々の集合体が組織だというのも事実。組織はある意味、人と人のネットワークで構成されているわけです。

ならば、『ガバナンス』の基盤には、組織内のコミュニケーションが大きく影響するのではないのでしょうか。

まずは、ひとりひとりの価値観や生き方、それに、お互いの立場を尊重したコミュニケーションを積み重ねること。

その上で、ルールを守り、公私混同せず、責任の配分に応じた決定権による結論を導き出せれば、団体の底力は間違いなく強くなるはずです。

■最後に

「人と人、組織と人…それぞれが、お互いに謙虚な視点で、信頼を育む。」

「自分と違う価値観で、ものごとを見直してみる。」

…自分たちの団体で、それができているのかどうか？

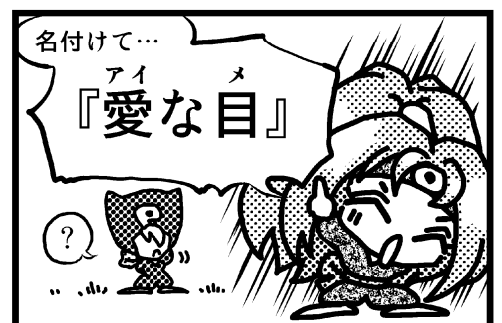
もし、今の組織運営や意志決定に疑問を感じることもあるのなら、あなたも、一度『ガバナンス』について考えてみてはいかがでしょうか。



目録



目が上に付いてる＝上しか見てない↑



まさかの“サカナ”オチ!? ㄉ

広報サポーター募集中!!

★簡単なお手伝いでもOK。個性的な仲間が揃ってます☆
詳しくは、さばえNPOサポート事務局・松田まで。

編集・お問い合わせ

特定非営利活動法人 さばえNPOサポート

〒916-0024

福井県鯖江市長泉寺町1丁目-9-20 鯖江市民活動交流センター内

TEL: 0778-54-7055 FAX: 0778-54-7058

【Eメール】info@sabae-npo.org

【ホームページ】http://www.sabae-npo.org